

△市内米軍施設の現況等について

◆（加納委員） まず、資料1ページ、10月28日に国に提案・要望書を出していますがけれども、花博の問題、旧上瀬谷通信施設の意向調査8月から10月までを終えて、28日に出していますがけれども、国への要望について、新しく項目立てをしたものはありますか。

◎（青木基地担当理事） 今回、主に旧上瀬谷通信施設の返還を契機に要望したものでございまして、1番と2番につきましては、夏の要望のときからしております。3番につきましては、今回初めて要望したものです。

◆（加納委員） 3番目を、初めて国へ要望した意図は何ですか。

◎（青木基地担当理事） まず、旧上瀬谷通信施設につきましては、跡地利用指針にもございますように、緑を享受する首都圏郊外の自然・レクリエーション空間という方向性が示されておりますので、公園については、国有地が110ヘクタールございます。どのぐらいの規模ということはまだ申し上げられませんが、かなりの規模の公園はつくっていくことになろうかと思っております。そういう意味で国費を使って整備したいということで要望しております。その際に花博の会場となり得るのかも含めて検討できればと思っております。

◆（加納委員） 旧上瀬谷通信施設について花博の問題が出てきたけれども、先ほど来の質疑の中で、国は国で推し進めていくであろうけれども、横浜市としてどういうスタンスなのか、横浜市として記事が出た後、どのようにお考えになっているのか、全庁的なプロジェクトも含めて本市として考えざるを得ないことを踏まえると、ここで本市としての意向をある程度お示ししておくということが中に入っているのではないかと思います。その辺はどうですか。

◎（小林政策局長） あくまでも準備、検討というレベルでございます。ですから意向という意味であれば、市会の皆様方の御理解も得た上で、横浜市としては花博をやっていくという意向を示すというのは、もう少し先になるのかと思っております。

◆（加納委員） もちろん地権者の問題もあり、議会への報告や議会との意見交換もあるけれども、来年度国が調査費を出していくという一部報道もある中で、この時期にこういう形を出しておかないとということでしょう。

◎（小林政策局長） もともと私どももこの段階で国費をそろそろ入れていくような検討をしていかないといけない時期かと思っております。それは返還がされたということで、地権者のほうにもアクションを起こして、横浜市としても責任を果たすことを一つ一つやっていかなければいけない。そういう意味では重要な道路、公園、基幹的な施設については検討・調査費のレベルで国費を入れていく。今までは市費単独でございます。国の協力も仰いでいくことも具体的にやっていかなければいけないと思うのがまず一番大きな理由でございます。あわせて、公園を旧上瀬谷通信施設でどうしていくか、防災的な要素も必要ですけれども、検討していくに当たって、目標の公園ということではなくて、そのつくり方という意味で、どういうスケジュール感でいくかにおいては、大規模イベントについてもあわせて検討していきたいと思っております。

◆（加納委員） つまり新たな段階に入ったのかなと、新しく3番目に項目を国に要望として出しているから、今局

長がおっしゃったことを踏まえ、なおかつ8ページにある国に国家的プロジェクト導入計画云々を踏まえて、この時期に出しておくという意識かと思っていますが、それでよろしいですか。

◎（小林政策局長） 新しい段階に入ったかどうかは、私はちょっと違う認識を持っています。従来から国家的プロジェクトの導入検討は、この特別委員会としても要望していただいておりますので、その延長線上にあるという認識で、新しい段階に入ったという意味で言えば、旧上瀬谷通信施設が返還されたということの従前・従後という意味でございしますが、やっていることは延長線上にあると思っています。

◆（加納委員） 8ページの8月から10月までやった意向調査についての具体的な報告は、今後いつの時点で上がってくるのか。この意向調査は何所帯に対してどのくらいの回収率で、局として意向調査の状況を踏まえてどのような感想をお持ちなのか、教えてください。

◎（青木基地担当理事） 8月から10月という締め切りで意向調査しておりますけれども、締め切りを過ぎても返答していただいております。一番最近集計したのが11月30日時点です。調査を全体で238名の方をお願いして、上瀬谷農業専用地区協議会については152名をお願いして108名、71%の回収率でございします。上川井につきましては、86名の方をお願いして70名の回答、81%でございします。まとめについては、たびたび返答がくるので、その都度率が変わるので、最新の状況はまだ集計の途上でございします。10月8日時点に集計したものを地権者の方々にお示ししてございします。その概要を申し上げますと、農業を引き続き継続したい、その中には農地として貸したいとか売却したいということも含めますが、その方々が約103名、ほかの土地利用をしたいという方が41名、その他が41名ということでございします。

お示しできる時期については、記名式で内部の作業として前提にやっておりましたので、お示しする内容については、地権者の方々に確認した上でお示ししたいと思っております。

◆（加納委員） それはまたしっかりと報告願いたいと思います。

それから、旧上瀬谷通信施設について今後まちづくり、跡地利用を進めていくについても、もちろん地権者の皆さん方の御意見をしっかりと確認しながら、そうは言っても瀬谷区全体、横浜市の郊外区という観点から、また神奈川県・関東一円の防災拠点という形からも大きなウエイトを示すことから、隣接する市、区としっかりと連携していただいて、交通ネットワークの問題、都市整備、まちづくりの観点も含めてしっかりと議論していただきたい。そこにおのずと国家プロジェクトが入ってこない、幾ら公園といっても環境創造局も維持管理だけでも大変でしょうから、今回10月28日の国への要望の中で新たな項目が出てきているということから、私とすれば、いよいよ本市全体としても全庁的なプロジェクトをしっかりと組んでいただいて、今後どうしていくかということも具体的に始めていかなければならないと思いますが、局長のお考えをお聞かせください。

◎（小林政策局長） 重々私どももその認識は持っておりますし、返還された以降もその意を強くしてございします。既に市内では基地跡地につきましては、跡地利用プロジェクトという組織で全庁上げて関係部署でやっておりますし、また機能を今後も高めていきたいと思っています。また国も含めて周辺の土地利用につきましては、交通ネットワークにしる新たな都市機能もどういうものができるか、きちんと検討していきたいと思っています。

◆（加納委員） 先ほど川口委員がおっしゃったように、瀬谷区内は5本の水路、河川が、あそこの脇にある市民の森が源流で和泉川、その脇を相沢川が源流にほぼ近いような状況であの地域を流れている。さまざまな土壤汚染や開発については、そういったこともしっかりと考えていただきたいと要望いたします。

それから、旧深谷通信所について、かまくらみちが通っているけれども、跡地利用の中でかまくらみちの問題は何か議論されているのですか。

◎（青木基地担当理事） 先ほど意向調査の回答のときにちょっと間違っただ数字を申し上げましたので訂正いたします。全体が238名の方をお願いしたのですが、189名の方から回答をいただきました。農業を継続したい方が103名、その他の土地利用41名、その他、回答が農地でもほかの利用でもない方が41名。旧上瀬谷通信施設の意向調査のデータにつきましては、後ほど資料として提出いたします。

かまくらみちの扱いですけれども、旧深谷通信所については直径1キロメートルの円になってございまして、その一番外側に外周の道路をつくる計画としております。かまくらみちがなくても外に回っていけば機能として存続できますし、中が公園として自由に出入りできるといいますか、今かまくらみちを挟んで西側と東側については3カ所の信号があって、そこで横断できるような形ですけれども、公園にしますと全部どこからでも横断できるような形になります。したがって、私どもとしてはそのほうが良いと思って地元にて提案しておりますけれども、地元のほうからも、かまくらみちは歴史性もあるので、全く廃止するのが良いのか、あるいは歩行者だけは通すような形にしたほうが良いのか、そのあたりは今ちょうど議論の真っ最中でございます。

◆（加納委員） それから市営墓地の関係は、ニーズの問題と周辺問題、それから跡地利用の中で組み込んでいくかという問題はなかなか難しいと思っております。先ほど健康福祉局まで行って説明しているということだと、ある程度本市としては墓地計画をしっかりとって、深谷の跡地利用の中でどの辺にどのくらいの規模のものを持っていくかというところまで、ある意味で決めている中での説明ではないかと思っておりますけれども、どうですか。

◎（青木基地担当理事） 今地元と話し合いをするに当たって、もちろん跡地利用基本計画を市のほうで策定するわけですけれども、地元からの御意見を伺いながら策定するプロセスをとっております。その中で図面も幾つか案をお示しして、いろいろ御意見をいただいて、レイアウトも御意見をいただいているところです。まだちょっとまとまっていないので、まとまった時点でお示ししたいと思っております。